

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第4回安曇野セミナー

## はじめに

田中敏博\* 笠井正志\* 多屋馨子\*

2010年に水戸で第1回を開催して始まった日本小児感染症学会若手会員研修会（通称、若手セミナー）は、長野・安曇野の地で3回目、通算で4回目となる会を今年も無事に終えることができました。

サッカーの国際試合の観戦で定着した形容がまさにぴったりの、土曜日昼～日曜日昼まで正味約24時間の「弾丸セミナー」に、若手40名（自称を含む、当日欠席2名）、チューター11名（当日不参加3名）が臨みました。あえて欠席や不参加の先生までカウントしているのは、その24時間だけがセミナーなのではなく、事前および事後にもグループワークの活動があり、全員がかかわった「若手セミナー」であったからです。

水戸での第1回は、とにかく初めての開催で、形を整えるのがやっとでした。安曇野で初めての開催となった第2回は、台風に直撃されて内容を大幅に縮小せざるを得ませんでした。グループワークを中心とした現在の形式で予定通り進んできたのは昨年（第3回）が最初です。したがって、今回の第4回は、過去3回の積み重ねのうえ

に、さらなる充実を期しての新たな一歩であったわけです。

「小児感染症学/免疫学を志す若手医師に、その基礎と最新の知見を学ぶ機会を提供することにより、将来のこの領域を背負って立つ人材を育成することを第一義とする。あわせて、お互いの親交を深め、情報交換と今後にわたる連携の礎を築くことを期待する」という理念はそのままに、受身ではなく学び合うことを目的としたグループワークを柱に、新しい試みである「お宅どう？」を取り入れるなど、今回も工夫を凝らしたプログラムを追求しました。

例年通り、第4回の若手セミナーもまた、長野県立こども病院のスタッフの皆様の多大なるご協力とご尽力なしには開催できませんでした。この場を借りてお礼申しあげます。ありがとうございました！

来年の第5回は福島で開催予定です。この報告特集を読んで、たくさんの若手が福島を目指してくださることを期待しています。

\* \* \*